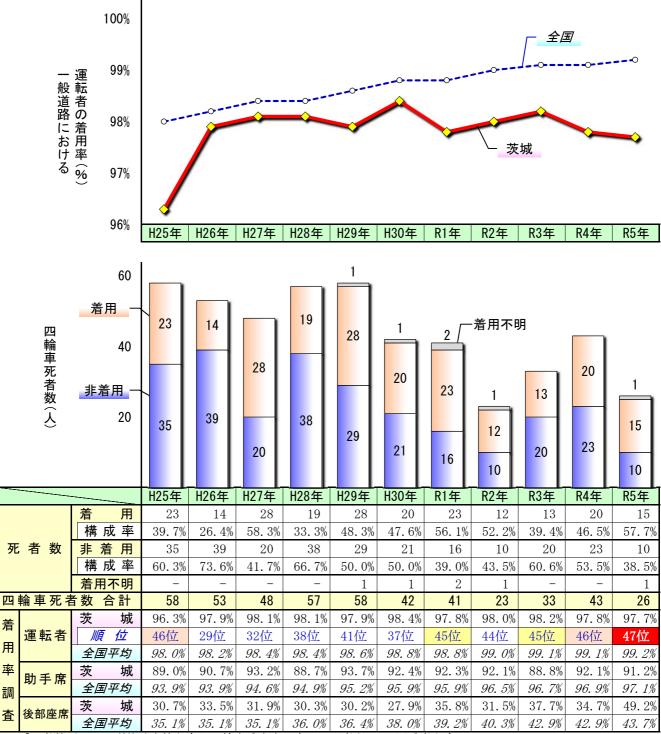
# 第 9

# シートベルトの着用状況

# 1 死者の着用状況・着用率の推移(平成25年~令和5年)

令和5年の一般道路における運転者のシートベルト着用状況(着用率)は97.7%、助手席91.2%、後部座席49.2%で、運転席、助手席は全国平均を下回っており、運転者着用率の全国順位は47位(ワースト順では1位)、助手席着用率は46位(ワースト順では2位)となっています。

シートベルト非着用の死者数は増減を繰り返して推移、令和5年は減少しました。。

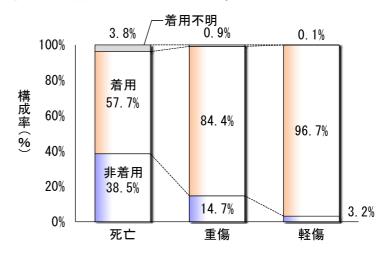


- ※1「死者数」とは、小型特殊車等を含む四輪車乗車中の全ての死者をいい、同乗者を含む。
  - 2「着用率」は一般道路における調査結果で、JAF(日本自動車連盟)と警察の合同調査。表内「順位」は、着用率の高い順。
  - 3 後部座席シートベルト着用義務化の法施行は、平成20年6月である。
  - 4 シートベルト着用状況の統計開始は、平成2年である。

#### 2 損傷の程度別着用状況

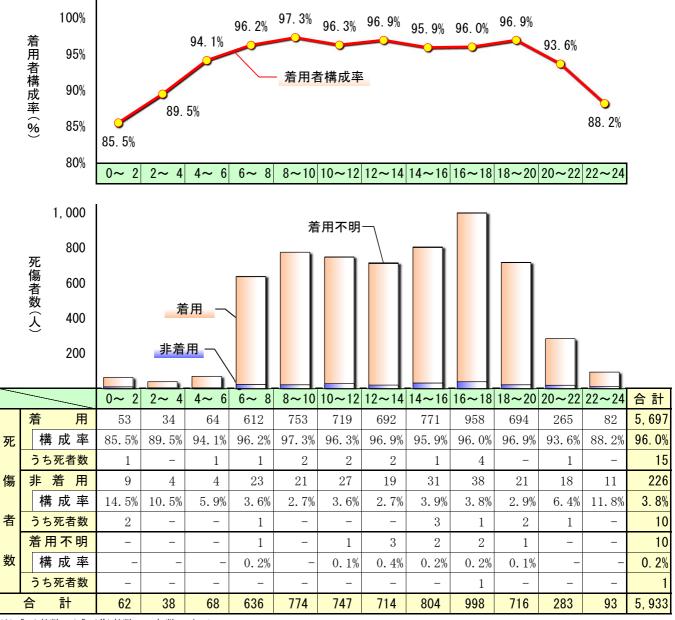
損傷程度が重くなるに連れて、シートベルト非着用者の構成率が高くなっています。

					死 亡	重傷	軽 傷	合 計
死	3	着		用	15	195	5, 487	5, 697
		構	成	率	57. 7%	84.4%	96. 7%	96.0%
傷	1111	非	着	用	10	34	182	226
者		構	成	率	38.5%	14. 7%	3.2%	3. 8%
数	着用不明			明	1	2	7	10
奴		構	成	率	3.8%	0.9%	0.1%	0. 2%
	合 計			26	231	5, 676	5, 933	
		構	成	率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



# 3 時間別着用状況

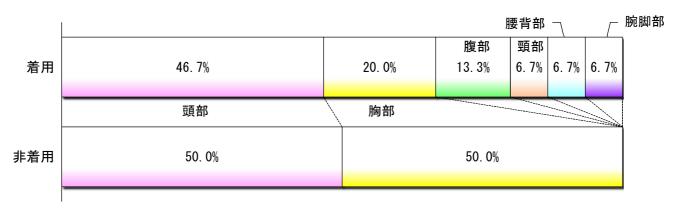
着用者構成率は「0~2時」が最も低く、この時間を含む「2~4時」、「22~24時」が90%未満と低くなっています。



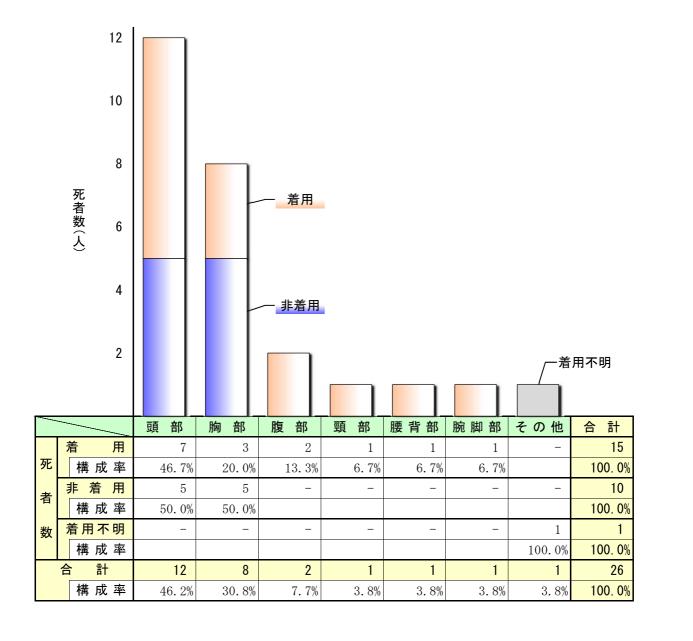
※「死者数」は「死傷者数」の内数である。

# 4 主な損傷部位・着用別死者数

非着用は「頭部」「胸部」が各50.0%なっています。 着用は「頭部」が46.7%で最も多く、次いで「胸部」(20.0%)となっています。



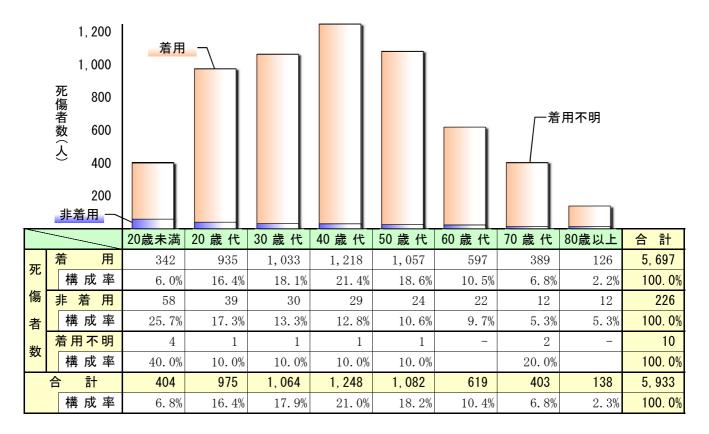
※ 上記グラフには「着用不明」を除く。



#### 5 年齢層別着用状況

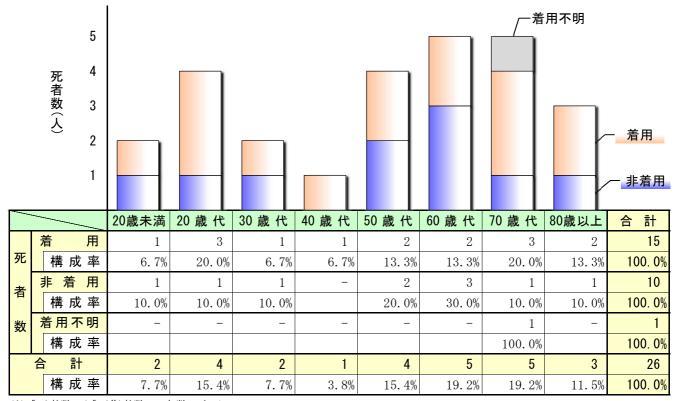
#### (1) 死傷者数

着用では「40歳代」が最も多く、次いで「50歳代」となっています。 非着用では「20歳未満」が最も多く、次いで「20歳代」となっています。



#### (2) 死者数

着用では「20歳代」「70歳代」が最も多くなっています。 非着用では「60歳代」が最も多くなっています。

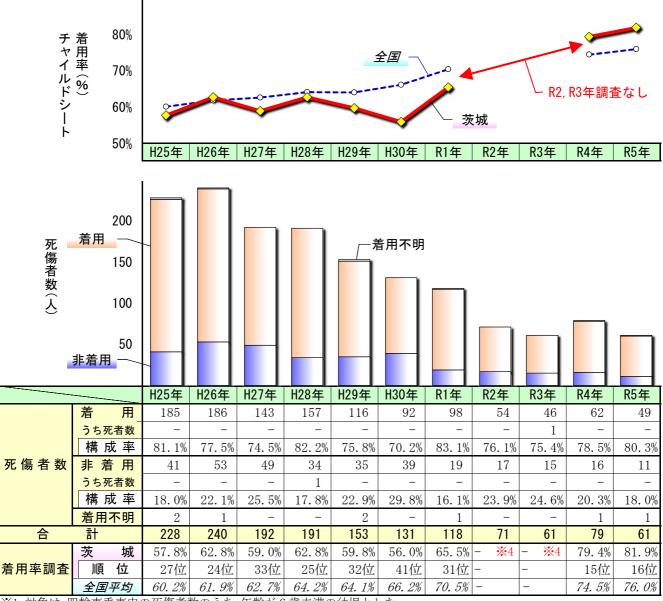


※「死者数」は「死傷者数」の内数である。

#### 6 6歳未満幼児のチャイルドシート着用状況

# (1) 推移(平成25年~令和5年)

令和5年のチャイルドシート着用状況(着用率)は81.9%で過去最高率を更新し、全国順位は16位でした。 チャイルドシート非着用の死傷者数は減少傾向で推移し、令和5年は統計資料の残る平成2年以降で最少と なりました。



- ※1 対象は、四輪車乗車中の死傷者数のうち、年齢が6歳未満の幼児とした。
  - 2 死者数は内数である。
  - 3 チャイルドシート着用以外(大人用着用、非着用)は、一括して「非着用」に計上した。
  - 4「着用率」はJAFと警察の合同調査結果で、表内「順位」は着用率の高い順。ただし令和2年・3年は新型コロナ感染症の影響に より調査中止。

# (2) チャイルドシート着用有無別死傷状況

非着用者は着用者に比べ、死亡や重傷となる率(死亡重傷率)が1.5 倍高くなっています。

		死亡	重傷	軽 傷	合 計	構成率
	着 用	_	3	46	49	80.3%
死傷者数	非 着 用	_	1	10	11	18.0%
	着用不明	-	ı	1	1	1.6%
合	1	4	57	61	100.0%	
死亡重傷率	着 用	6. 12%				
光し生物学	非 着 用	9.09%				

